

「家庭科」における消費者教育の実践報告

愛知県立半田工業高等学校 教諭 長尾 真由美

1 はじめに

本校は知多半島唯一の工業高校であり、電子機械科、電気科、土木科、建築科の3学年18クラスからなる専門高校である。

家庭科の履修は1、2年生で「家庭総合」を2単位ずつ、合計4単位履修している。卒業後は就職をする生徒が約9割を占める。また、スマートフォン、携帯電話の使用については、朝のST時から帰りのST時まで認められないが、それ以外の時間であれば校内での使用は認められている。それらの現状を踏まえて、賢い消費者になるための授業を試みた。その取組について報告する。

2 授業計画及び取組

「経済生活を主体的につくる」分野の授業計画（家庭総合 大修館書店）

(1) 家庭の経済生活をみつめよう（2時間）：クレジットカードの仕組み、講演

(2) 消費生活と意思決定について考えよう（2時間）：クリティカルシンキング・フェアトレードについて考える

(3) 消費者の権利と責任について調べよう（2時間）：グループワーク

*授業外の取組

- ・授業の導入として、スマートフォン、パソコンを使って「あいち暮らしweb」のトラブル心理チェックを実施させ、自分のだまされ度を確認させる。
- ・夏休みの課題として、主に「消費生活」に関する新聞記事を3つあげさせ、感想を記入し、提出させる。



3 実践内容

(1) ・クレジットカードの仕組み：ワークシート

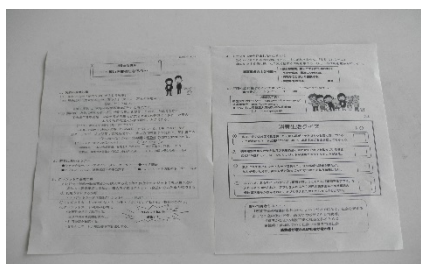
- ・講演：「賢い消費者になろう」

講師：前田芳子氏 NACS（日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談協会）

教材：パワーポイント、DVD、ワークシート、冊子「お悩み相談室」

対象：1年生6クラス（1クラス×50分、6講演）

前田先生がご用意くださったプリントを導入として、DVD、パワーポイントを活用し、オンラインゲームでのトラブル、契約について、クレジットカードでのトラブル、トラブルにあったときの対処方法など盛りだくさんの内容で講演していただいた。



生徒の感想

- ・身近なことだけどあまり詳しく勉強することがないので、すごくためになった。
- ・ビデオはとてもわかりやすかった。クレジットカードや契約について今まで以上に知識が増えた。
- ・だれかに相談する事が大事だということが分かった。
- ・クレジットカードは賢く使えば、すごく便利なものと思った。
- ・身に覚えのない請求がきても無視をしていれば大丈夫ということを知った。スマホはこれからもずっと使うのでいい勉強になった。

(2) クリティカルシンキング・フェアトレードについて考える

教材：ワークシート

消費者市民社会教育に基づき、クリティカルシンキング（批判的思考）について考えさせた。注文したピザがチラシとは違い、ずいぶん小さい物が届いたらどうするか、ワークシートを用いて実施した。また、消費が持つ影響力を理解するという事で、フェアトレードについてもワークシートを用いて実施した。

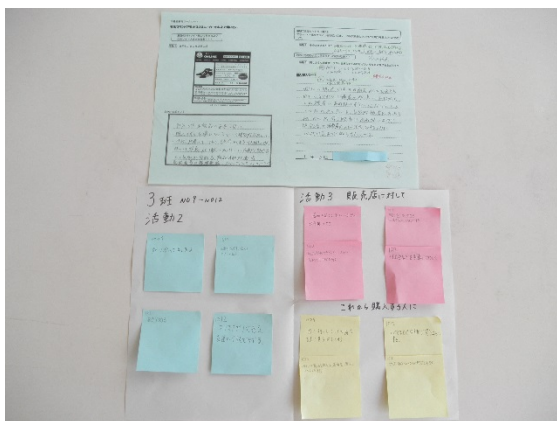
生徒の感想

- ・お金の余裕があるときはフェアトレードの物を買おうと思う。
- ・自分に起こったことをきちんと販売店に伝えるのは大事と思った。
- ・その店ではもうピザは頼まない、友達にも伝えれば、友達は同じ思いをしなくてすむ。

(3) グループワーク：「ネットショッピングでスニーカーを購入しよう」

教材：ワークシート、ふせん

4人1組で班をつくり、あやしいと思われるサイトを提示し、どこがあやしいかを各自考えさせるようにした。さらに、信頼できるサイトで購入したスニーカーが自分に合わず、返品できない時はどうするかを考えさせた。ふせんに自分の考えを記入して班でまとめ、班長が発表する時間も設定した。自分と同じような状況に他の消費者が遭わないように個人の視点と消費者の視点で捉えさせ、消費者市民としての役割を理解させた。



生徒の感想

- ・自分は今までサイトをしっかり見ずに商品を購入していた。気をつけたい。
- ・自分が行動することで他の人がダメされないなら、行動しようと思った。
- ・安さにとびつくのではなくて、複数のサイトをみて見極めることが大事と思った。
- ・お客様レビューに投稿すれば、他の人が購入するときの参考になる。
- ・実際にお店に行って購入することも大事と思った。

4 成果

卒業後に社会人になる生徒が多いこともあり、賢い消費者になろうという意見が多く見られた。グループワークを通して自分とは違う選択や意見がある、ということを知り、お互いの理解を深めることができた。自分だけでなく、他の消費者がトラブルにあわないよう行動する、という消費者市民社会の視点も理解することができた。

5 終わりに

今回は生徒が自分自身の問題として捉えてほしいと考え、授業外の取組も進めた。講演も講師の方に無理をいい、2日間で6クラスすべてが講演を受講できるようにお願いした。生徒にとっては消費者トラブルについて、自ら行動して解決する、という方法があることを学べてよかったと思う。今後も生徒が興味を持ち、考えるきっかけとなる授業を外部に依頼したり、自ら取り組んでいきたいと考えている。やはり、こちらが感じているよりも生徒たちは日常生活のあらゆる場面で、ネット社会に身をおいており、トラブルと背中合わせであることを実感した。トラブルにあっても泣き寝入りすることなく解決することが、消費者市民として社会参加することであり、消費者が変われば社会が変わることを今後も伝えていきたい。